

令和6年度 第1回学校運営協議会議事録

【日時】

令和6年6月21日(木)

14:00~15:00 学校見学

15:00~17:00 運営協議会

【場所】

中央聴覚支援学校 新館1F会議室

【参加者】

<学校協議会委員>

- ・中瀬 浩一(同志社大学 免許資格課程センター 教授)
- ・良原 恵子(大阪府臨床心理士会 副会長)
- ・前田 浩(大阪ろう難聴就労支援センター 理事長・センター長兼務)
- ・前田 雅敏(南大江東連合振興町会 会長)
- ・那須 元樹(OSP ハートフル株式会社 代表取締役社長)
- ・堀井 麻記(本校 PTA 会長)

1. 開会

2. 学校長挨拶

委員自己紹介

3. 各学部、寄宿舍からの報告

4. 議事

①令和6年度学校経営計画について 校長より説明

<委員からの主な意見・質問及び回答>

◇めざす学校像や中間目標が昨年度より変わっている。毎年変わるものなのか。中期の目標の期間はどれくらいなのか。去年から変わっているので、今年度が新たなスタートなのか。わかれば委員の方も理解しやすい。

→昨年度末には承認していただいた内容になっているが内容は変わってもよい。中期的目標については3年間を見据えた目標となる。3年間を縛らずに委員の方に承認をいただければ変えることはできる。

◇中期目標を見て学校が求めるものに共感が得れた。就職の話が比較的少なかった。高等部、専攻科の生徒に対しては就職の文言を取り入れてもらえたらと思う。

→進路指導に関しては一人ひとり丁寧に、生徒にあった希望のある進路指導が行えている。スタートの地点としては個別を大事にしたいと思っている。

◇各部の報告では子どもが減ってきたという話はあるが、子ども達がわくわくして学校に通うための対策を感じる発表だった、校長先生が新しくなり、何に力を入れたいか、というのが少しわかりにくかった。

→児童生徒数を増やしたいというのは強く持っている。

◇生徒数が減っているので集めていきたいということだが、聴覚障がいのある生徒は地域の学校等に行っているのか、そもそも聴覚障がいの子どもの数は減っているのか。

→大阪府の聴覚障がいの子どもの数の把握は問い合わせでもはっきりとは把握できていない。難聴学級の数も減っている。また難聴学級に入るまでもないという子どももいる。感覚としては地域の学校に行っている子どももまだまだいるので、その子どもたちを対象とした相談や取り組みを行っていききたい。

- ◇グランドデザイン重点のとりくみであることばをはぐくむという事に対して、生活言語が1次的言語(幼稚園～小学部)そこから学習言語につなげる取り組みは何があるのかというのが見えてこない。
コミュニケーションに関しての取り組みはよくわかるが読み書きに関してはどうやって取り組んで、どのように評価していくのか。また具体的な取り組みの発表と振り返りを出してほしい。たとえばある学部ではこんなことを取り組んで行く、など今後聞かせていただきたい。
→作文指導は小中学部の時期に大事な活動として取り組んでいる。中学部では国語科で授業の最初に条件作文を取り入れている。個々の授業の中でも取り組んでいるが、言われたような整合性は今後必要になる。
- ◇ことばをはぐくむ中で心理的な安定が必要になる。心理的な安心感があったからこそ、自分の気持ちを言えるといった報告もあった。そのように心理的な安定とことばのつながりに対して助言をいただきたい。
→「安心して」と言ってできるものではない。結果として安心できる場となる。学校という日々の中でどのように安心感を重ねていくか。それをことばという視点で考えるなら、いろいろな取り組みを丁寧に重ねること、授業参観での活動や日常のことばや、なにげないことばの積み重ねがことばの育みと心理的な安心感につながると感じる。
- ◇職場に定着する場合に技術もあるが、誰とでも話ができるという人は、自己肯定感が高い。そのような人が職場に定着できる。学校では子どもと話しができる教員の力が必要。生活言語とか学習言語に対しての教員への研修が必要だと思う。
- ◇ことば=手話と思いたい。授業の中で日本語を勉強しているが、その時間があれば手話表現を増やした方がよいと思う。
- ◇手話を大切にするというのは学校としてベースにあるので、手話をないがしろにして日本語を大切にすることはない。それを前提に読み書きの力をどのようにつけていくか、ということだと思う。読み書きと言っても内容が広いのでどのように評価するのか、具体的な取り組みを考える必要がある。心理的な安定ができる環境をベースとしてどのようにしていくのかということも見させていただきたい。子どもや保護者に選んでもらえる学校になるために。
- ◇自分の名前を使っている学級新聞などつっこみどころ満載のことば遊びや、それをもとにした会話が安心感のひろがりにつながり、学習のことばにつながるのではないかと感じた。
- ◇重点のとりくみの設計、各部の目標設定を作る。一貫校ならではの中央だからこそできること。それを作り上げることが、今期の目標となってもよいのでは。
→本校で作っている自立活動プログラムの見直しや、検証も必要かと感じる。
- ◇いじめ対応委員会について。生徒指導提要の改訂が出たので、1年くらいかけて反映が必要かと思う。
- ◇すばらしい学校という情報が当事者には届いてなかった。先生方で頑張ってもらいたい。
- ◇学校の中だけの人間で進める時代ではない。全く知らない人に対して理解してもらう必要がある。
まずは学校運営協議会の委員が理解できるようにしてほしい。

◆議事①令和6年度学校経営計画について承認された

5. 事務局より

6. 閉会